

～～第8488回～～

白砂山

～H30. 7. 25-27～

野反湖には知る人ぞ知るキャンプ場とニッコウキスゲ(ノゾリキスゲと地元では言う)と白砂山という隠れた名山がある。キャンプ場のバンガローは湖面標高1513mの湖を見下ろす高台にある。風は爽やかで猛暑を忘れる。初日はキャンプを堪能。2日目、登山口を6:00出発。堂岩山まではずっと樹林帯の中。展望のない登りを3時間。コースタイム通りだ。この先から稜線に出て、展望が開けたが遠くはガスっていて白砂山は見えない。手前のピークがみえる。多くのガイドブックにはここではるか遠くの山頂を見ると行く気がしなくなるともある。最初のピーク獵師の頭に向け進む。快適に見える稜線も乾燥していて歩きにくい。だんだん暑さに悩まされる。風は時々吹いてくれるが、止むと熱気に包まれる。ノゾリキスゲの花は終わっている。しかしハクサンフウロやコゴメグサ、ウツボグサなどが熱気の中で咲いていた。山頂のエリアは広く3回ほど騙された。3等三角点「西川浦」。しばし独占。山頂に白い砂があるのではなく、白砂川の源頭にあるのでこの名がついたと思われる。この先に佐武流山を越えて苗場山に至る長大な尾根が見える。立入禁止の看板がある。「ここから先は、群馬県による登山道整備の作業中のため。開通日(8月11日)まで立入を禁止します。」とあるが、帰って調べたら、「群馬県境稜線トレイル」というコース整備を山の日に合わせてやっているということで、白砂山から上ノ倉山、稲包山から三国峠を経て平標山と続くルートが開通するということだ。これも素晴らしいが、地図上に破線のある佐武流山から苗場山まで続いている稜線のことではない。紛らわしい。というか説明不十分だ。短パンの若者が1人来た。日差しが強いので、早々に引き返す。途中で3人の登山者とすれ違った。堂岩山の手前まで帰りも所要時間は同じだった。ここから八間山を回って帰る。ゆったりと下りゆったりと登る。笹原で気持ちいいコースなのだが、なんせ暑い。八間山の山頂は広い。2等三角点「八軒」。ここからは富士見峠までの稜線ですっと下り。ホツツジ、ギボウシ、ツリガネニンジン、ノアザミ等が咲いている。峠に着いたらガスの中であった。今回は帰らないで、キャンプ場に泊まるので、焦らない。温泉と買い物に道の駅へ。ガスがずっと消えず、キャンプ場も少し寒いくらいだった。3日目は雲一つない快晴。ゆっくり湖畔を散策。ヤナギランの大群落が満開。地元の観光協会お勧めの「チャツボミゴケ公園」に寄る。「群馬鉄山」という鉱山跡で、珍しいチャツボミゴケ(ツボミゴケ科/茶藨苔)という苔は強酸性火山性水域に生息する苔で、長い時を過ぎ鉄鉱石になるという。苔は鮮やかな緑できれい。レンゲツツジや紅葉の時期に来るとより楽しいかも。8/10に群馬県の防災ヘリが墜落、乗員9名が死亡した。山頂にあった看板の「群馬県境稜線トレイル」の確認飛行だったそうだ。天気が良くなかったようだが、翌日のお披露目を前に無理をしたのだろうか。合掌。

参加者：7名(静岡北1、静岡東5、静岡西1)

天候：晴れ

地図：野反湖

コースタイム：キャンプ場＝登山口 600…ハンノ木沢 615…地藏峠 645…水場 810…堂岩山 855…分岐 900…猟師の頭 935…金沢レリーフ 955…白砂山 1040-1110…金沢レリーフ 1155…猟師の頭 1220…分岐 1250…八間山 1450…富士見峠 1555＝キャンプ場

記録：静岡東 oh!